

第 8 回グローバル COE 国際シンポジウム

The 8th International Sport Sciences Symposium on “Active Life”

中田大貴、曹振波、内田雄介

Hiroki Nakata, Zhen-Bo Cao, Yusuke Uchida

早稲田大学スポーツ科学学術院

Faculty of Sport Sciences, Waseda University

スポーツ科学研究, 10, 62-65, 2013 年, 受付日:2013 年 4 月 15 日, 受理日:2013 年 4 月 15 日

2013 年 2 月 23 日(土)、早稲田大学東伏見キャンパス 79 号館にて、早稲田大学グローバル COE 国際シンポジウム「The 8th International Sport Sciences Symposium on “Active Life”」を開催した。第 8 回目となる今回の国際シンポジウムでは、プロジェクト III(トップスポーツ振興)に関するトピックを中心に開催した。

午前の部では、シンポジウム「Scientific Basis on Athletic Performance」を開催した。国際的に活躍されている 3 名の招待講演者(Dr. Pitsiladis(グラスゴー大学、イギリス)、川上泰雄先生(早稲田大学)、Dr. Coyle(テキサス大学、アメリカ)よりご講演を頂いた。特に陸上競技の短距離走、長距離走に関する最新の研究データをご紹介して頂き、それぞれのご講演後は多くの参加者が積極的に意見を交わす討論の場となった(写真 1)。

午後の部では、八田秀雄先生(東京大学)による基調講演「Blood lactate concentration as a tool in the athletic field」を開催した。従来の運動中における乳酸

に関する知識ではなく、乳酸の新たな役割について、貴重なデータをご紹介頂いた。

その後、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科及び協定校の大学博士後期課程の学生・若手研究者 11 名による「Young Investigator's Symposium」が行われ、それぞれの研究発表後には、学生間で活発な議論が交わされた。最後に、早稲田大学スポーツ科学研究科博士後期課程グローバル COE プログラム登録全学生によるポスター発表(各発表内容は、別掲)が行われ、盛んな議論が行われた。

今回の国際シンポジウムでは、2011 年度にスポーツ科学研究科博士課程に入学した博士課程 2 年生が主体となり、シンポジウムの企画・運営を行った。シンポジウム、研究会、学会等の運営は非常に労力を要するものではあるが、このような運営能力もまた研究者として今後必要になってくるものであり、学生たちにとっては貴重な経験であると考えている。



写真1. シンポジストによる発表風景

1. シンポジウム

講演者および講演内容は以下のとおりであった
(各々の発表内容は、別掲)。

【Symposium: Scientific Basis on Athletic Performance】

‘Why black athletes dominate certain sports: Nature and nurture?’

Dr. Yannis Pitsiladis

University of Glasgow, UK

‘Biomechanical Profile of World Top Sprinters’

Dr. Yasuo Kawakami

Waseda University, Japan

‘Physiology of the marathon: How fast might they go?’

Dr. Edward F. Coyle

University of Texas, USA

【Keynote Lecture】

‘Blood lactate concentration as a tool in the athletic field’

Dr. Hideo Hatta

The University of Tokyo, Japan

【Young Investigator’s Symposium】

‘A comprehensive approach to study kinematics and muscle activity of sport specific movements’

Mr. Hendrik Enders

University of Calgary, Canada

‘The instance of subacromial impingement during front crawl swimming’

Ms. Tanghuizi Du

Waseda University, Japan

‘Research of characteristics of plantar pressure distribution in obesity children’

Mr. Xiaofeng Zou

Jilin University, China

‘Overload Training Inhibits Phagocytosis and ROS Generation of Peritoneal Macrophages:

Role of IGF-1 and MGF’

Mr. Weihua Xiao

Shanghai University of Sport, China

‘Effects of taekwondo program on cystatin C and physical fitness in metabolic syndrome: Age and sex differences’

Mr. Seung-Taek Lim

Dong-A University, Korea

‘Determinants of sport participation in Germany’

Ms. Kirstin Hallmann

German Sport University Cologne, Germany

‘The Effectiveness of Relationship Marketing Activities

Applied to Amateur Baseball Clubs’

Mr. Kisung Kwon

Seoul National University, Korea

‘Mucosal immune function and exercise in wheelchair athletes’

Mr. Christof Leicht

Loughborough University, UK

‘The conditioning tests for CBA elite basketball players’

Mr. Shaohui Jin

Tsinghua University, China

‘The effect of limited absolute frequency of self-controlled feedback on motor skill performance and learning’

Mr. Min-jen Tsai

National Taiwan Normal University, Taiwan

‘Muscle relaxation of the foot reduces the corticospinal excitability of hand muscles via intracortical inhibition’

Mr. Kouki Kato

Waseda University, Japan

2. ポスター発表

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科のグローバル COE プログラム登録学生による、ポスター発表が実施された(各々の発表内容は、別掲)(写真2)。

2時間10分のポスター発表では、1人3分間の英語によるプレゼンテーションを行い、その後自由討論の時間には活発な討論が行われた。ポスター発表終了後に行われた懇親会では、3名の優秀ポスター賞(遠田明子:早稲田大学スポーツ科学研究科博士課程3年、加藤孝基:早稲田大学スポーツ科学研究科博士課程2年、舟橋弘晃:早稲田大学スポーツ科学研究科博士課程1年)が発表され、グローバル COE プログラム拠点リーダーである彼末一之教授より表彰された。最後に、彼末一之教授は、「今年度のグローバル COE 登録学生3年次生は、早稲田大学スポーツ科学研究科グローバル COE プログラムを3年間学んだ最初の学生であり、今後も国内外で活躍できる高いレベルの研究者を目指して、研究活動を行ってほしい」と語られた(写真3)。



写真2. ポスター発表の風景



写真3. 懇親会の風景

2013 年度は早稲田大学スポーツ科学研究科グローバル COE プログラムの最終年度であり、これまで以上

に活発な議論が行われるシンポジウムが開催され、若手研究者同士の交流が進むことを期待する。



写真4. 早稲田大学グローバル COE プログラム「アクティヴ・ライフを創出するスポーツ科学」第8回国際シンポジウム終了後、招待講演者を囲んで記念撮影